

令和5年第13回教育委員会会議

1 日 時

令和5年9月15日(金)

開会 14時00分

閉会 14時35分

2 場 所

県庁行政庁舎 17階 教育委員会室

3 出席者

北野喜樹教育長、新屋長二郎委員、新家久司委員、高野勝委員、
浅蔵一華委員

4 説明のため出席した職員

吉田雅英教育次長、塩田憲司教育次長、金子俊一教育次長、山本一彦庶務課長、
高倉英明教職員課長、北島公之学校指導課長、辻江冬樹文化財課長、瀬戸博邦保健
体育課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第24号 令和6年度石川県立学校第1学年入学者の募集定員について（原
案可決）

議案第25号 募集定員に関する規則の一部改正について（原案可決）

議案第26号 教職員の人事について（原案可決）

6 報告

報告第1号 令和5年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成
績について

7 審議の概要

・開会宣告

北野教育長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第26号は人事に関する案件のため地方教育行政の組織及び運営に関する
法律第14条第7項に基づき非公開とすることを全会一致で決定。

・質疑要旨

以下のとおり。

議案第 24 号 令和 6 年度石川県立学校第 1 学年入学者の募集定員について（北島学校指導課長説明）

議案第 24 号 令和 6 年度石川県立学校第 1 学年入学者の募集定員につきまして、お手元の資料により、ご説明いたします。

まず、1 ページをご覧ください。1 の「全日制高等学校」についてです。

(1) の「募集定員の基本的な考え方」については、記載のとおりであります。県全体では 308 人減の 10,020 人、地区別では、県南地区は 76 人減の 2,087 人、県央地区は 124 人減の 6,680 人、県北地区は 108 人減の 1,253 人です。これら地区別の中学校卒業生数及び私立学校等への入学者などを総合的に勘案し、(3) に記載のとおり、県南地区については 1 学級を減らすこととし、県央地区については 3 学級を減らすこととし、県北地区については増減なしの本年度と同じとし、この結果として、県全体では、(2) の下段にありますとおり、来年度の募集定員は、今年度の 7,640 人から 160 人減の 7,480 人に、学級数では、今年度の 192 学級から 4 学級減の 188 学級となります。

それでは、地区別の状況について、もう少し詳しくご説明いたします。

まず、県南地区は、中学校卒業生が 76 人減少する見込みであるため、寺井を 1 学級減といたします。寺井高校については、これまで同校の受検者の多い小松市及び能美市の中学校卒業予定者が減少する見込みであることや、近年の志願倍率などを考慮し、1 学級減とし、3 学級とします。

また、県央地区は、中学校卒業生が 124 人減少する見込みであるため、3 学級減とし、松任、野々市明倫、金沢北陵の 3 校をそれぞれ 1 学級減といたします。松任高校と野々市明倫高校については、両校の受検者の多い白山市の中学校卒業予定者が減少する見込みであることや、近年の志願倍率などを考慮し、松任高校は、普通科を 1 学級減とし、普通科 1、総合学科 2 の計 3 学級、野々市明倫高校は、1 学級減とし、7 学級といたします。金沢北陵高校については、これまで同校の受検者の多い金沢市北部及び津幡町・かほく市の中学校卒業予定者が減少する見込みであることや、近年の志願倍率などを考慮し、1 学級減とし、4 学級とします。

県北地区は、中学校卒業予定者が 108 人減少する見込みであります。羽咋郡市・七尾鹿島地区、穴水・輪島地区、能登・珠洲地区のそれら 3 つの地区ごとの卒業予定者の減少幅などを考慮し、学級数は増減なしとし、本年度と同じにします。

次に、2 ページをご覧ください。

2 の「定時制高等学校」、3 の「通信制高等学校」につきましては、それぞれ令和 5 年度入試と同じ募集定員といたします。

4 の「特別支援学校」につきましては、入学希望者の実態を勘案し、入学希望者全員を受け入れることが出来るように、344 人＋若干名の募集定員といたします。

5 の「県立金沢錦丘中学校」につきましては、令和 5 年度と同じ募集定員といたします。

3 ページと 4 ページの資料には、学校別に、募集学級数と募集定員をまとめてありますので、ご覧いただきたいと思っております。

また、5 ページには参考資料として、6 月に報告いたしました各高等学校の推薦枠を基に推薦入学の募集人数をまとめてございます。

以上、ご審議をよろしく申し上げます。

【質疑】

(高野委員)

県北地区の高校とは、どこからどこまでを指しますか。

(北島学校指導課長)

宝達高校より北の学校となります。

(高野委員)

県北地区の中学校卒業生 1, 253 人とは、宝達高校から飯田高校までの人数ということですね。わかりました。

(新家委員)

参考資料について、推薦枠が前年比 +2、+4 と微増している学校がありますが、増やした理由を教えてください。

(北島学校指導課長)

推薦枠の上限を 5% 引き上げたことにより、各学校が推薦枠を増やしたためです。

(高野委員)

県北地区の中学校卒業生 1, 253 人に対して、高校は 13 校ありますが、うち羽咋高校と七尾高校は倍率が 1 倍を超えると思うので、360 人が入学すると考えると、残りは約 900 人となります。すると、900 人の生徒が 11 の学校に入学することになるわけですが、1 高校あたりの入学者数が少なくなります。

学校の統廃合ではなく、学科の変更などによって、入学者数が少なくなりすぎないような工夫は何か考えていらっしゃるのでしょうか。

(北島学校指導課長)

県北地区の定員についてはこちらとしても非常に気にかけているところです。中学校卒業生の中には、私学や県央地区の学校に通う生徒もいます。そういった中で、それぞれの学校が色々な魅力づくりをしており、学科の見直しは予定していませんが、今ある学科をどのように魅力づくりに繋げていくかは、今後も学校とともに考えていきたいと思っております。

議案第 25 号 募集定員に係る規則の一部改正について（北島学校指導課長説明）

議案第 25 号の募集定員に係る規則の一部改正についてお諮りするものでございます。

提案理由であります、

（1）令和 6 年度における第 1 学年募集定員の決定により、高等学校の募集生徒数を変更する必要があること及び（2）令和 6 年度における第 1 学年募集定員の決定により、特別支援学校の募集幼児・生徒数を変更する必要があるためでございます。

改正案につきましては、7 ページから 16 ページにお示ししてございます。

14 ページからの新旧対照表に沿ってご説明しますが、表が画面上では見にくいいため、お手元の紙の資料をご覧ください。

1 枚目と 2 枚目は「石川県立高等学校規則」の新旧対照表となっております。

表の左側が改正案で、右側が現行のものでございます。なお、太囲みの変更箇所でございます。

それでは、県立高等学校規則の変更箇所から、ご説明いたします。

先程お諮りいたしました募集定員の変更に伴いまして、募集生徒数は、寺井高校、松任高校普通科、野々市明倫高校、金沢北陵高校の 4 校で、それぞれ 40 名の減少となります。高等学校規則については以上でございます。

次に、3 枚目の「石川県立特別支援学校規則」の新旧対照表をご覧ください。

特別支援学校については、義務教育である小学部・中学部を除き、先程お諮りいたしました募集定員に基づき、募集幼児・生徒数を変更いたします。

変更となった部分が、太囲みとなっておりますのでご覧ください。

以上が改正点でございます。よろしくご審議をお願いいたします。

【質疑】

（新屋委員）

特別支援学校の募集定員について、知的障害の募集定員が減っています。対象の生徒数は増加傾向だったと思いますが、その増加が頭打ちになったということでしょうか。

（北島学校指導課長）

ご指摘のとおり、知的障害の募集定員が減っている学校もあります。募集定員については、毎年、各特別支援学校の管理職が、地区内の中学校に問い合わせ設定しており、年によって変動します。ですので、増加傾向が頭打ちとなったかどうかまでは把握しておりません。

報告第1号 令和5年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について（瀬戸保健体育課長説明）

報告第1号令和5年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について、ご報告いたします。

17ページをご覧ください。

最初に、1「全国高等学校総合体育大会」につきましては、7月21日から8月21日までの期間、北海道、山形、栃木、和歌山県において開催され、29競技に選手508名が出場しました。

団体では、相撲男子で金沢市立工業高校が3位となっております。

個人では、水泳（飛込）男子飛び板飛び込み、高飛び込みの2種目で、小松大谷高校の二羽選手が優勝、自転車競技女子500mタイムトライアルで、内灘高校の北岡選手が、昨年に続き2連覇を達成したほか、ケイリンでも準優勝しており、同じく男子1kmタイムトライアルで内灘高校の山下選手、ウエイトリフティング男子89kg級スナッチ、クリーン&ジャック、トータルの3部門で、飯田高校の山下選手が優勝しております。

また、水泳（競泳）男子100m平泳ぎで、金沢高校の高井選手、水泳（飛込）男子飛び板飛び込みで、小松大谷高校の杉本選手が準優勝しております。

なお、その他の成績につきましては、記載のとおりであり、一番下の表は、過去5年間における入賞数の推移であります。

18ページをご覧ください。

次に、2「全国高等学校選手権大会」につきましては、7月28日から8月8日までの期間、新潟、愛知、広島 の3県において開催され、トランポリン競技をはじめ、3競技に選手47名が出場しました。

団体では、トランポリン競技男子・女子ともに星稜高校が優勝、同じく女子で金沢学院大学附属高校が3位となっております。

個人では、トランポリン競技男子個人で、星稜高校の都竹選手、同じく女子個人で、金沢学院大学附属高校の石田選手、男子シンクロナイズドで、金沢学院大学附属高校の中田・松本組、女子シンクロナイズドで、星稜高校の澤田・大藤組が優勝しております。

また、トランポリン競技男子個人で、金沢学院大学附属高校の松本選手、同じく男子シンクロナイズドで、星稜高校の金沢・赤石組が準優勝しております。その他の成績につきましては、記載のとおりであります。

最後に、3「全国高等学校定時制通信制体育大会」につきましては、8月2日から8月19日までの期間、東京都、神奈川県において開催され、陸上競技をはじめ、5競技に選手46名が出場しました。

団体では、入賞した学校はありませんでしたが、個人では、陸上競技男子走高跳で、金沢泉丘高校通信制の東選手が8位入賞となっております。

なお、一番下の表は、3つの全国大会における過去5年間の入賞総数の推移であります。

今後も、県高体連はもとより、競技団体を含む関係部局との連携を深め、より一層効率的・効果的な運営により、引き続き、運動部活動の充実に努めてまいりたいと考えております。

以上、報告を終わります。

【質疑】

質疑なし

(北野教育長)

以降の審議は非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 26 号 教職員の人事について（高倉教職員課長説明）

高倉教職員課長が説明し、採択の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

- ・ 閉会宣言

北野教育長が閉会を告げる。